

第4学年O組 社会科学習指導案

令和2年9月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 地震による災害

2 単元の目標

- (1) 我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすいことや県や市（町）は災害に対する対策や事業を進めていることを理解し、災害の具体的事例を地図や統計資料を活用して調べ、まとめることができる。
- (2) 過去に発生した自然災害や、自然災害発生時における地域の関係機関の協力などに着目し、災害から人々を守る活動を捉え、自分たちにできることを考え、ノートなどに表現することができる。
- (3) 我が国の自然災害に対処してきた人々の働きについて問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、地域に住む一員として災害に備えて自分たちにできることを考えようとする。

3 学習の計画 (10時間完了)

- 第1次 第1時～第2時 日本で起きた自然災害について話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 第2次 第3時～第4時 地震による災害が及ぼす暮らしへの影響や災害後の対応について調べる。
- 第5時～第7時 地震による災害への対策について調べる。
- 第3次 第8時 地震による災害への対策について、まとめる。
- 第9時（本時） 地震による災害に備えて、自分たちにできることを考える。
- 第10時 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 自然災害に備えて自分たちにできることを考えることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……振り返りカード、だいすき大愛知
 - 教師……各種資料（阪神・淡路大震災の写真と助かり方のグラフ）、ワークシート
- (3) 関 連
 - 3年 社会 安全を守る人びとの仕事（消防署や警察署で働く人々や関係諸機関と地域の人々との協力）
 - 5年 社会 自然災害から人々を守る（自然災害からの国土保全）
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
学習問題をつかむ	1 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習問題をつかむ。 (1) 前時までの学習を振り返る。 ・〇〇市では、自然災害に備えてハザードマップを作っているけれど、東日本大震災の被害予想と実際の被害を比べると予想を超えていたので、不安になりました。 (2) 本時の学習問題をつかむ。 自然さい害(大地しん)にそなえて、自分たちには何ができるのだろう。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りカードを基に、前時までの学習を想起させる。 ○ 前時の振り返りで県や市（町）の対策や取組に不安を感じている児童を意図的指名する。 ○ 今までは、「自分たちは守られている」という意識が強かったことにも気付かせたい。 ○ 公助には限界があることに気付かせ、本時の学習問題へとつなげる。
見通しを立てる	2 学習問題に対する予想を話し合う。 (1) 予想について話し合う。 ・避難訓練を真剣に取り組みます。 ・家で、家具などを固定します。 (2) 阪神・淡路大震災の助かり方の資料から分かることについて発表する。 ・自力で助かった人が多い。 ・地域の人によって多くの人が助け		<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料等を見ていない状態で、自分たちができることについて考えた内容を予想として取り扱う。 ○ 第3時～第4時の活動を想起させる。 ○ 阪神・淡路大震災で、崩れた家に閉じ込められた人を救助しようとする地域の人たちの写真を見せることで、活動をよ

見 通 し を 立 て る	<p>られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救助隊に助けられた人は、少ししかいない。 	13	<p>り現実的にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「阪神・淡路大震災の助かり方の内訳」（日本火災学会調べ）を提示し、助かった人の9割以上は、公助ではなく自助・共助によるものだというを読み取らせる。 ○資料中の数値の単位（％）について簡単に説明する。
追 究 す る	<p>3 本時の資料や前時までの学習を基に、「自分たちにできること」について話し合う。</p> <p>(1) 「命やくらしを守るために大切なこと」を考える。</p> <p>(2) ペアで意見の交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だいすき大愛知の中にもあるけれど、訓練に参加するということが大事だと思います。どうしてかという、自分の命を守るためのトレーニングになるからです。また、地域の訓練に参加すれば自分の顔を覚えてもらえるからです。 <p>(3) 「命やくらしを守るために大切なこと」を全体で発表する。</p> <p>(4) 「自分たちにできること」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、〇〇のみんなが安全に避難できるように、日頃から近所の人に挨拶をして、たくさんの人と顔見知りになります。 <p>(5) 「自分たちにできること」を全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「阪神・淡路大震災」では、近くに住んでいる人と助け合って助かった人もいるから、私も訓練に参加して、地域の人と仲良くなってみたい。 	40	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書やだいすき大愛知を基に「命やくらしを守るために大切なこと」を考えさせ、根拠とともにワークシートに記入させる。 ○意見に対する根拠を明確にさせるため、教科書などを指し示しながら、意見交流させる。 ○個人で考えたことや、交流で他の児童から学んで参考になった意見を、根拠を示させながら数人に紹介させる。 ○大地震に備えて「自分たちにできること」を意見文として考え、記入させる。 <p>評根拠となる資料を示しながら、自然災害に備えて自分たちにできることを考えている。（交流、ワークシート、発表）</p>
ま と め る	<p>4 本時のまとめをし、次時の学習の内容をつかむ。</p> <p>(1) 本時のまとめをする。</p> <p>(2) 次時の学習の内容をつかむ。</p>	45	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習問題について振り返らせる。 ○次時では、単元の学習問題「地震による災害から身を守るためにどのような取組があるのだろう」について振り返ることを知らせる。

(5) 本時の評価規準

- 自然災害に備えて自分たちにできることを、根拠を基に考えている。

（交流、ワークシート、発表）

5 備 考

(1) 学級の実態

- 9年前の東日本大震災については、当時の被害の状況などを知っている児童は少ない。また、地震が起きたときの対応について家族で話し合っている児童も学級の1/3程度であり、地震災害に対する切実感をもたせる必要がある。

(2) 指導の力点

- 公助に頼るのではなく、現実味をもって自分たちにできることを考えさせるため、阪神・淡路大震災の資料（写真や助かり方のグラフ）を用意する。
- 他児童から自分にとって必要な情報を得ることができるよう、交流の場面を設定する。

6 指導と評価